

聖霊降臨後第 22 主日特禱 (特定 25)

全能の神よ、み子イエス・キリストは、小さい者のために行うことはわたしのために行うことになる、と教えられました。すべての人の僕となり、わたしたちのために命を捨て、死なれたみ子のように、わたしたちにも隣り人の僕となる心をお与えください。父と聖霊とともに一体であって世々に生き支配しておられる主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

旧約聖書 イザヤ書 59 章 [1-4] , 9-19 節

〔主の手が短くて救えないのではない。主の耳が鈍くて聞こえないのでもない。むしろお前たちの悪が神とお前たちとの間を隔てお前たちの罪が神の御顔を隠させお前たちに耳を傾けられるのを妨げているのだ。お前たちの手は血で、指は悪によって汚れ唇は偽りを語り、舌は悪事をつぶやく。正しい訴えをする者はなく真実をもって弁護する者もない。むなしいことを頼みとし、偽って語り労苦をはらみ、災いを産む。〕

それゆえ、正義はわたしたちを遠く離れ恵みの業はわたしたちに追いつかない。わたしたちは光を望んだが、見よ、闇に閉ざされ輝きを望んだが、暗黒の中を歩いている。盲人のように壁を手探りし目をもたない人のように手探りする。真昼にも夕暮れ時のようにつまずき死人のように暗闇に包まれる。わたしたちは皆、熊のようにうなり鳩のような声を立てる。正義を望んだが、それはなかった。救いを望んだが、わたしたちを遠く去った。12 御前に、わたしたちの背きの罪は重くわたしたち自身の罪が不利な証言をする。背きの罪はわたしたちと共にありわたしたちは自分の咎を知っている。主に対して偽り背きわたしたちの神から離れ去り虐げと裏切りを謀り偽りの言葉を心に抱き、また、つぶやく。こうして、正義は退き、恵みの業は遠くに立つ。まことは広場でよろめき正しいことは通ることもできない。まことは失われ、悪を避ける者も奪い去られる。

主は正義の行われていないことを見られた。それは主の御目に悪と映った。主は人ひとりいないのを見執り成す人がいないのを驚かれた。主の救いは主の御腕により主を支えるのは主の恵みの御業。主は恵みの御業を鎧としてまとい救いを兜としてかぶり、報復を衣としてまとい熱情を上着として身を包まれた。主は人の業に従って報い刃向かう者の仇に憤りを表し敵に報い、島々に報いを返される。西では主の御名を恐れ東では主の栄光を畏れる。主は激しい流れのように臨み主の霊がその上を吹く。

詩 編 第 13 編

- 1 主よ、あなたはいつまでわたしをお忘れになるのですか // とこしえにみ顔を隠されるのですか
- 2 いつまでわたしは悩み苦しみ、心に痛手を受け // いつまで敵は勝ち誇るのですか

- 3 わたしの神、主よ、顧みてわたしにこたえ // 死の眠りに就かないように、目に光を与えてください
- 4 「勝利はわたしのもの」と敵に言わせず // わたしが倒れて敵が喜ばないようにしてください
- 5 あなたの慈しみに寄り頼み // わたしは心からあなたの救いを喜ぶ
- 6 主をたたえて歌おう // 神は豊かに恵みを注がれた

使徒書 ヘブライ人への手紙 5章 12-6章 2, 9-12節

実際、あなたがたは今ではもう教師となっているはずなのに、再びだれかに神の言葉の初歩を教えてもらわねばならず、また、固い食物の代わりに、乳を必要とする始末だからです。乳を飲んでいてはだれでも、幼子ですから、義の言葉を理解できません。固い食物は、善悪を見分ける感覚を経験によって訓練された、一人前の大人のためのものです。だからわたしたちは、死んだ行いの悔い改め、神への信仰、種々の洗礼についての教え、手を置く儀式、死者の復活、永遠の審判などの基本的な教えを学び直すようなことはせず、キリストの教えの初歩を離れて、成熟を目指して進みましょう。

しかし、愛する人たち、こんなふうに話してはいても、わたしたちはあなたがたについて、もっと良いこと、救いにかかわることがあると確信しています。神は不義な方ではないので、あなたがたの働きや、あなたがたが聖なる者たちに以前も今も仕えることによって、神の名のために示したあの愛をお忘れになるようなことはありません。わたしたちは、あなたがたのおのおのが最後まで希望を持ち続けるために、同じ熱心さを示してもらいたいと思います。あなたがたが怠け者とならず、信仰と忍耐とによって、約束されたものを受け継ぐ人たちを見倣う者となってほしいのです。

福音書 マルコによる福音書 10章 46-52節

一行はエリコの町に着いた。イエスが弟子たちや大勢の群衆と一緒に、エリコを出て行こうとされたとき、ティマイの子で、バルティマイという盲人が道端に座って物乞いをしていた。ナザレのイエスだと聞くと、叫んで、「ダビデの子イエスよ、わたしを憐れんでください」と言い始めた。多くの人々が叱りつけて黙らせようとしたが、彼はますます、「ダビデの子よ、わたしを憐れんでください」と叫び続けた。イエスは立ち止まって、「あの男を呼んで来なさい」と言われた。人々は盲人を呼んで言った。「安心しなさい。立ちなさい。お呼びだ。」盲人は上着を脱ぎ捨て、躍り上がってイエスのところに来た。イエスは、「何をしてほしいのか」と言われた。盲人は、「先生、目が見えるようになりたいのです」と言った。そこで、イエスは言われた。「行きなさい。あなたの信仰があなたを救った。」盲人は、すぐ見えるようになり、なお道を進まれるイエスに従った。